

# 平田遺跡

—第9次発掘調査—

現地説明会資料

平成17年12月18日(日)

13:00~

所在地	鈴鹿市弓削一丁目
調査目的	宅地造成に伴う埋蔵文化財の記録保存
調査期間	平成17年10月11日~12月18日
調査面積	約1,200㎡
調査担当	鈴鹿市考古博物館



周辺の遺跡

## 《はじめに》

平田遺跡は、鈴鹿川右岸、標高約 22mの河岸段丘上の辺縁部に位置します。平田遺跡の周辺にはいくつかの遺跡があります。南西に近接して中世城館・平田城跡、東には天神遺跡(古墳時代)、岡田遺跡、岡田南遺跡(古墳時代～中世)、岡田神社遺跡(中世)などの集落遺跡があります。また、鈴鹿川の対岸には、伊勢国分尼寺で使用された瓦を生産した川原井瓦窯跡や、官人の制服の革帯につけられた石製の帯飾りが出土した津賀平遺跡などがあります。

昨年度から開発に伴い、8次にわたる発掘調査が行われました。その結果、弥生時代から中世の多くの遺構を確認しました。主に飛鳥～奈良時代の掘立柱建物(ほったてばしらたもの)や竪穴住居(たてあなじゅうきょ)、鎌倉時代の掘立柱建物や区画溝が見つかっています。

飛鳥～奈良時代の大型の四面廂付掘立柱建物 SB0101 と企画的に配置された掘立柱建物 SB0109、南に廂(ひさし)を持つ掘立柱建物 SB0117 と企画的に建てられた建物群など、格調の高い建物が検出されています。円面硯(えんめんけん)・畿内系土師器(きないけいはじき)・古瓦など一般の集落では出土しないような遺物が出土しており、官衙(かんが:役所)に関連する施設や豪族の居宅、または古代寺院に関連する施設など、様々な可能性が考えられています。また、平田遺跡の南西に近接して中世城館・平田城跡がありますが、調査では平田城が築かれる以前の鎌倉時代の屋敷地などが検出されています。

## 《調査の成果》

今回の9次調査では、古墳時代から中世の遺構を確認しました。古代の遺構は主に北区で確認されました。中世の遺構は主に南区で確認しています。

### 【古墳時代】

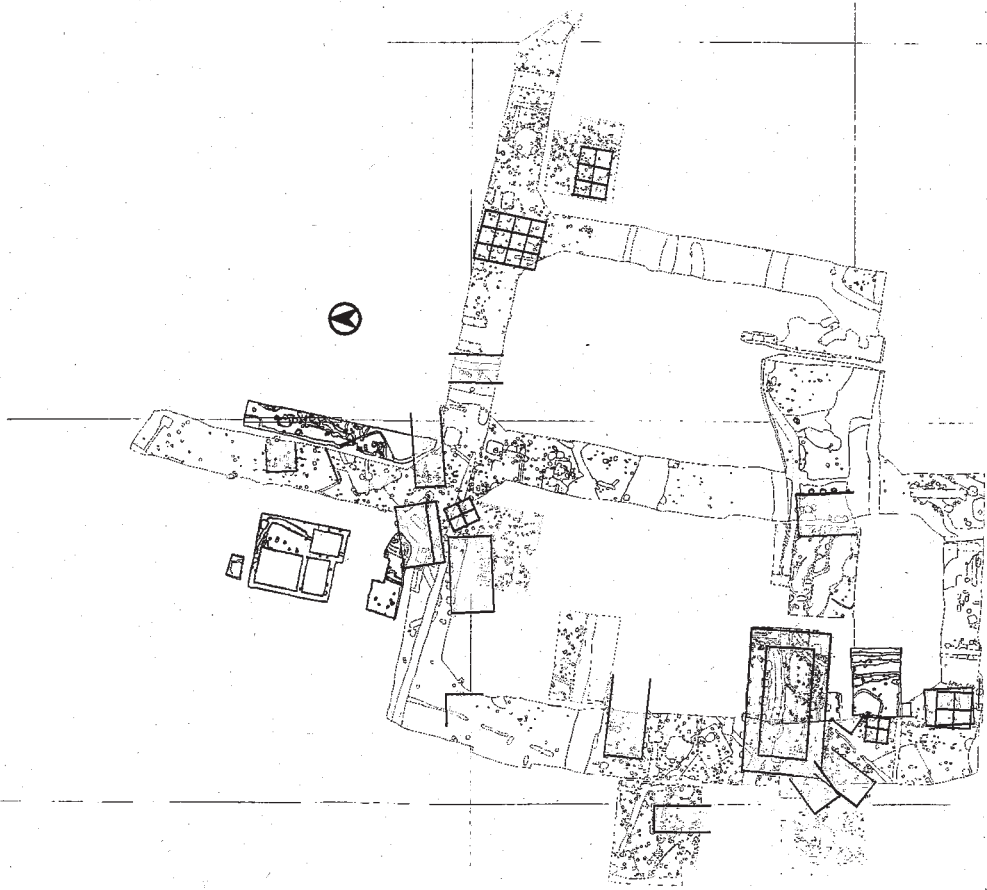
L字状に曲がる幅4～5mほどの溝 SD0980 を検出しました。古墳(方墳)の周溝(しゅうこう)と考えられます。この溝からはあまり遺物が出土していないため、古墳の築造時期は不明です。周溝の底部から柱の跡が見つかりました。この掘立柱建物 SB0995 は桁行(けたゆき)3間×梁行(はりゆき)2間の東西棟の建物です。古墳が築造される以前の建物です。

### 【古代】

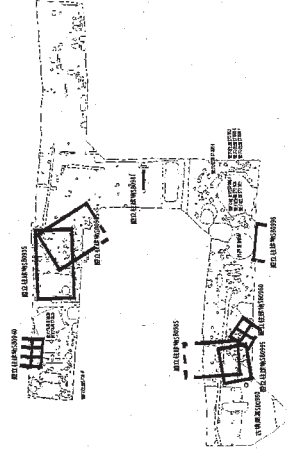
飛鳥時代～奈良時代の竪穴住居を確認しました。11棟確認した竪穴住居のうち6棟は著しく削平を受けており、その痕跡をkarouじて確認したため、詳細な時期については不明です。竪穴住居 ST0938 と ST0939 は重複しています。その切り合い関係から ST0939 の後に ST0938 を建てていることがわかりました。竪穴住居 ST0958・ST0962 は竪穴状土坑 SX0957 と重複し、竈(かまど)の痕跡が確認できています。竪穴住居 ST0962 からは甕の上半分が置かれた状態で出土しています。



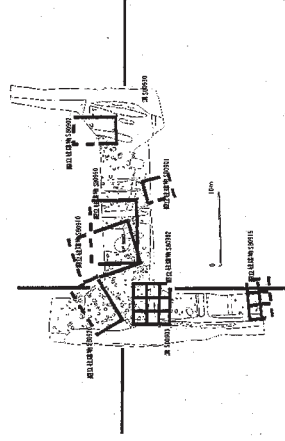
竪穴住居 ST0962 甕出土状況



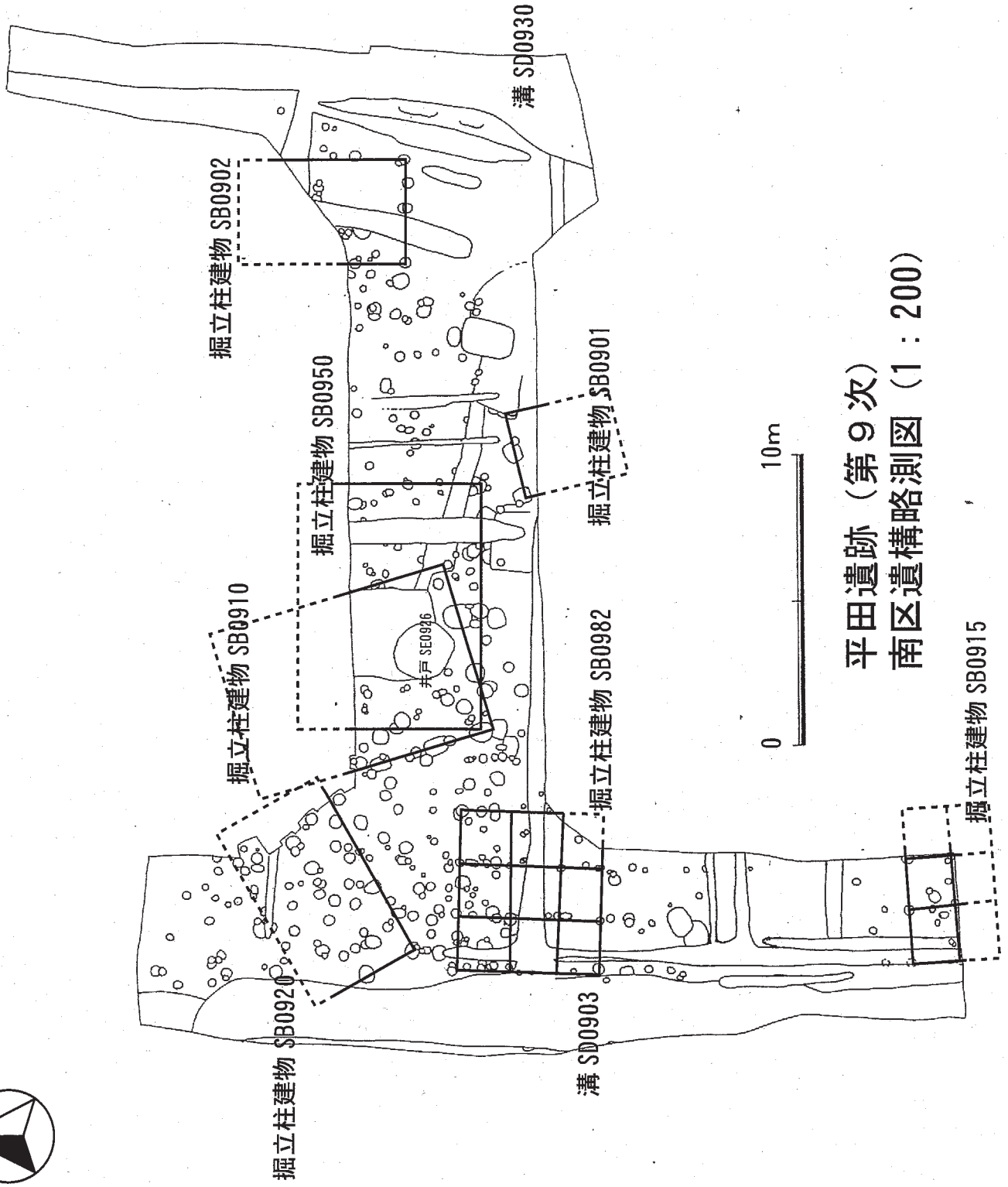
西地区 (1~8次)



東地区 (9次)



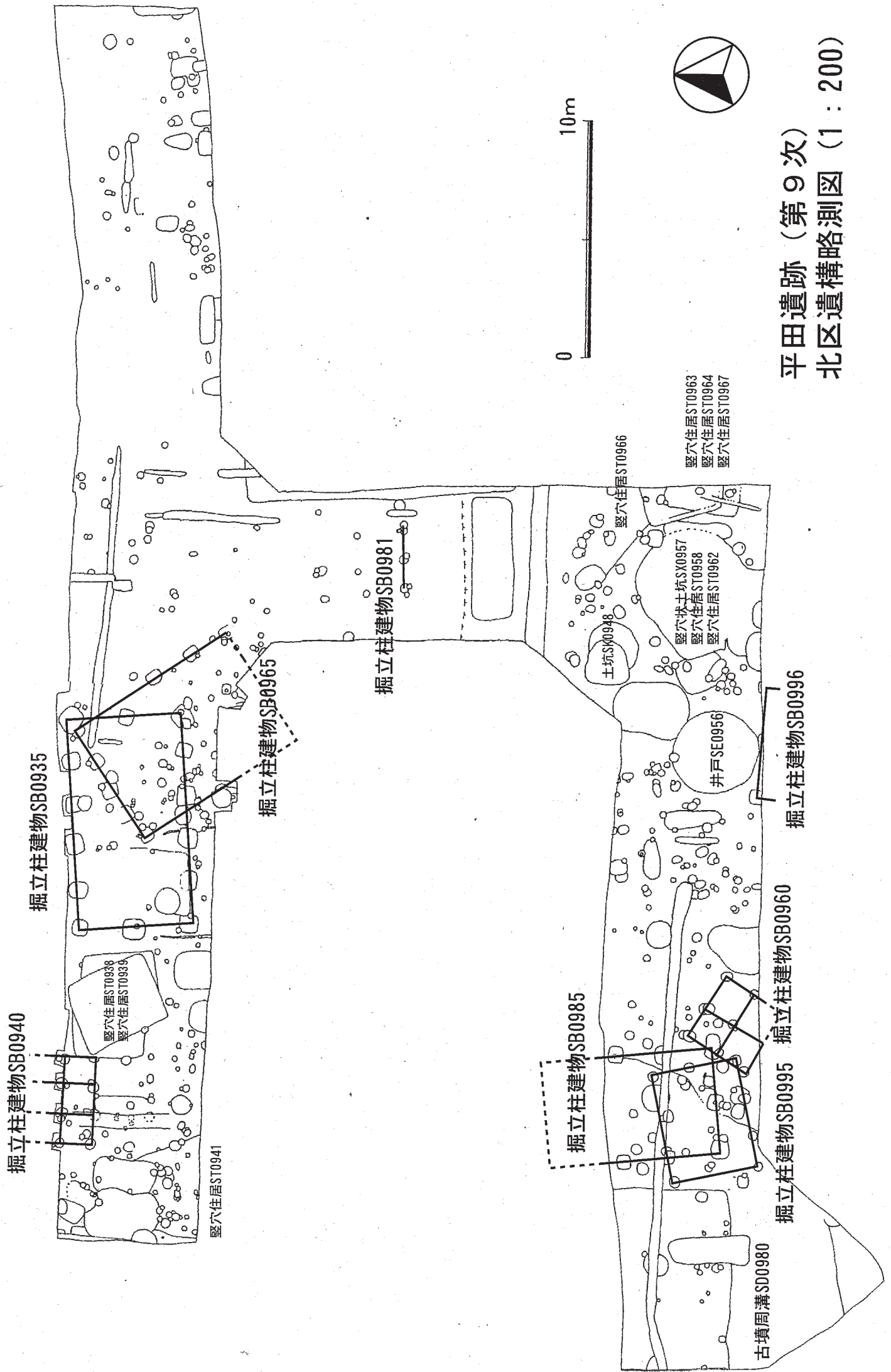
平田遺跡遺構図 (1 : 1000)



平田遺跡 (第9次)  
南区遺構略測図 (1:200)

掘立柱建物 SB0915





平田遺跡 (第9次)  
 北区遺構略測図 (1 : 200)

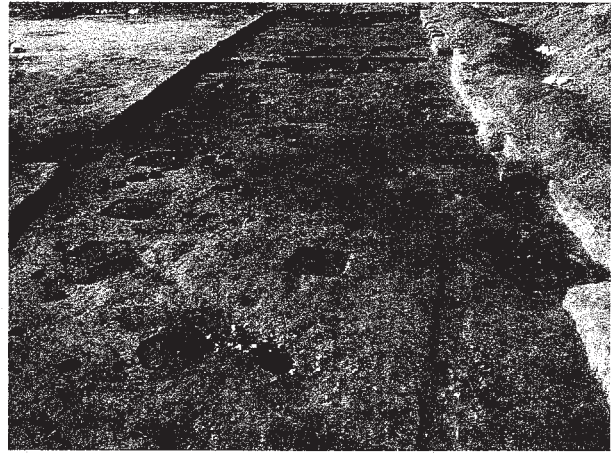
飛鳥時代～平安時代の掘立柱建物を11棟確認しました。建物の方位から2つのグループに分けられます。建物の柱穴の重複関係から方位が大きく西へ振れる建物が先行します。

① 飛鳥～奈良時代 (SB0901, SB0910, SB0920, SB0965)

方位が大きく西へ振れる建物群です。東西棟1棟、南北棟3棟を確認しました。北区で検出した掘立柱建物 SB0965 は桁行4間?×梁行4間の建物で、南区で検出した掘立柱建物 SB0920 (桁行2間?×梁行2間以上) と同じような方位をとります。南区で検出した掘立柱建物 SB0910 は桁行2間以上×梁行3間の規模です。

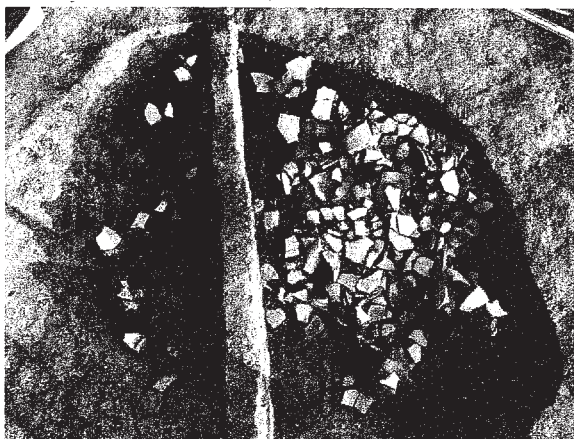
② 奈良～平安時代 (SB0902, SB0935, SB0940, SB0950, SB0960, SB0985, SB0996)

方位がほぼ真北に近い建物群です。東西棟2棟、南北棟3棟、総柱建物2棟を検出しました。建物の規模がわかるものは掘立柱建物 SB0935 で桁行5間(9m)×梁行2間(4.8m)です。隅丸(すみまる)方形の柱掘り方が整然と並びますが、北東、南東の隅の柱穴は対角方向に傾いています。また、方位は大きく振れますが、掘立柱建物 SB0960 は柱の切り合い関係から掘立柱建物 SB0985 より新しい建物です。

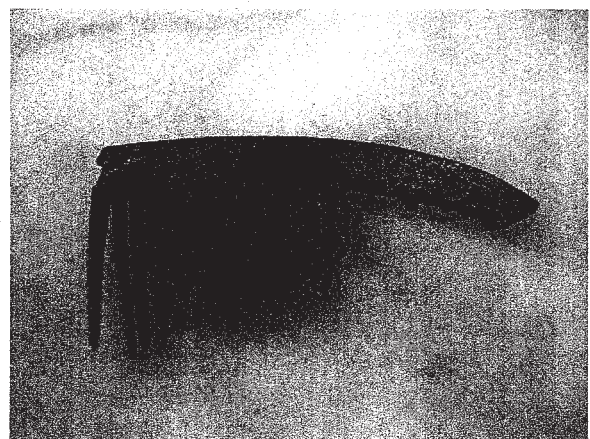


掘立柱建物 SB0935

そのほかにいくつかの土坑が確認されています。直径約2m、深さ0.3mほどの土坑 SK0948 からは須恵器の甕の破片が大量に出土しています。鉄製の紡錘車も一緒に出土しています。また、縦穴状の土坑 SX0957 からはべっこう(タイマイ)製の櫛が出土しています。



土坑 SK0948 遺物出土状況



べっこう(タイマイ)製櫛

### 【中世】

南区の西端で幅 2 m の南北溝 SD0903 を検出しました。出土遺物から室町時代以降埋没したものと考えられます。溝 SD0903 は調査区の北部で西へと向きを変えます。屋敷地を区画するための溝と考えられます。また、約 30 m 東の調査区の東端でも幅 2 m 以上の南北溝 SD0930 を検出しました。北区では溝 SD0930 の延長を確認できていないことからこの溝も南区と北区の間で曲がるものと思われます。これら 2 条の溝の間で検出した掘立柱建物 SB0915, SB0982 は溝 SD0903 との切り合い関係から、溝 SD0903 が掘削される以前に建てられたものと思われます。



溝 SD0903

### 《まとめ》

今回の調査でも、古代から中世の遺構が多く検出されました。古代の中心は四面廂付掘立柱建物 SB0101, 南面廂付掘立柱建物 SB0117 が確認されている西地区にあったものと思われます。しかし、柱穴の掘り方が 0.8 m を超える掘立柱建物 SB0935 は廂こそ持たないものの、西地区の建物と比べ、規模ではさほど見劣りするものではありません。官衙（役所）に関連する施設や豪族の居宅、寺院に関連する施設などさまざまな可能性が想定される施設が一带に広がっていたものと思われます。また、今回の調査では、西地区で出土した古瓦がほとんど出土していません。古代寺院が存在したとするならば、西地区付近に存在していた可能性が高いと思われます。

西地区に比べ、今回の調査では室町時代の遺物が多く見られました。平田城跡に関連する可能性が考えられますが、詳細は今後の調査により明らかにしていきたいと思えます。